

# ロシア語ロシア文学研究

第34号

2002年

## 目 次

### ■研究論文

大森 雅子 『巨匠とマルガリータ』におけるブルガーコフの世界観 —— フロレンスキイの宇宙論を通した作品分析 ——	1
岩本 和久 オレーシャの作品における「庭」の主題について	9
Йосуке ИГАРАСИ Так называемая «нейтрализация интонации» —— Фонологическое описание русской интонации ——	15
梅津 紀雄 ソ連文化を記述する——歴史の記憶化とショスタコーヴィチ研究の現在	23
沢田 和彦 ロシア人の観た明治の新潟 —— P.G. ヴァスケーヴィチ『日本旅行日誌 敦賀港から新潟港まで』について ——	33
坂庭 淳史 ネクラーソフ論文「ロシアの二流詩人たち」をめぐって —— 詩論のなかのチュッチャフ ——	43
乗松 亨平 ツルゲーネフ『獵人日記』と生理学的スケッチ —— まなざしと距離の演技 ——	51
中澤佳陽子 フセヴォロド・イヴァーノフの『ウ』 —— 「集団的創造」をめぐって ——	59
Вакана KOHO Образ леса как „русское пространство“ （«Серебряный голубь» А. Белого в контексте „неонароднической“ литературы начала XX в.）	67
前田 しほ ナールビコフのエロティシズムとその構造	75
中尾 裕子 丁寧さを表す手段としての指小接尾辞の使用	83
中田 敦子 「男性名詞複数生格におけるゆれ」に関する一考察 サンクトペテルブルク大学文系学生を対象としたことばの意識調査から	93
Юри СУГИНО Евгений из «Медного Всадника» и Пугачев из «Капитанской дочки» —— К толкованию образов бунтовщиков ——	101
坂上 陽子 レフ・トルストイの初期作品における人物描写の方法	109
江村 公 ロトチェンコの1920年前後の作品をめぐって —— 「最後の絵画」、「線」そして写真へ	117
■ 2001年度研究発表会より	127
学会報告優秀賞・奨励賞の選考経過と授賞理由（佐藤純一・桑野隆）	
学会報告要旨（横井幸子、佐藤清一郎、石原公道、塚原孝、秋山真一、島田潤、向山珠代、森田まり子、佐野洋子、杉野由紀、中沢敦夫、久野康彦、網谷益典、村松壯、イリーナ・ダフコワ、宇都弥生、浦井康男、佐藤裕子）	
ワークショップ報告要旨：日本の大学におけるロシア語教育の現状と課題（ロシア語教育研究会）	
■書評	149
● Stephen M. Dickey著, Parameters of Slavic Aspect. A Cognitive Approach. CSLI Publications. Stanford (三谷恵子) ; ●白倉克文著『近代ロシア文学の成立と西欧』成文社 (藤沼貴) ; ●柳富子編著『ロシア文化の森へ —— 比較文化の総合研究』ナダ出版センター (栗原成郎) ; ●中村喜和著『ロシアの風 —— 日露交流二百年を旅する』風行社 (和田春樹) ; ●アンドレイ・シニャーフスキイ (アブラム・テルツ) 著『ブーシキンとの散歩』島田陽訳 群像社 (沼野充義) ; ●長縄光男・澤田和彦著『異郷に生きる』成文社 (渡辺雅司) ; ●木下豊房・安藤 厚編著『論集・ドストエフスキイと現代 —— 研究のプリズム —』多賀出版 (田中継根) ; ●中平耀著『マンデリシャーム読本』群像社／鈴木正美著『言葉の建築術 — マンデリシャーム研究!』群像社 (齊藤毅)	
■学会動静	169
追悼東郷正延先生（佐藤純一）；染谷茂先生を悼んで（宇多文雄）；日露作家会議〈モスクワ—東京2001〉記録（龜山郁夫）；学会活動記録；役員・委員・顧問一覧；支部活動記録；支部連絡先；編集委員会より	